

児童養護施設入所児童へのライフストーリーワーク実践に影響を与える要因

—児童養護施設と児童相談所へのアンケート調査の分析から—

神戸女子大学 曾田 里美 (2279)

キーワード：児童養護施設 ライフストーリーワーク 生い立ちの整理

1. 研究目的

子どもが過去に起こった出来事や家族のことを理解し、自身の生い立ちやそれに対する感情を信頼できる大人とともに整理するライフストーリーワーク（以下、LSW）は、近年、社会的養護のもとで暮らす子どもへの取り組みとして注目されている。中でも、児童養護施設入所児童については、2007年から研究や実践が散見される。また、2012年3月に定められた「児童養護施設運営指針」の中にも、子どもの発達に応じて、生い立ちや家族の状況について適切に知らせていくことが示されている。

児童養護施設入所児童に対する LSW は、このように必要性が認められ、近年関心が示されるようになったが、取り組みのほうはなかなか進展していないのが実情である。LSW に関する研究や実践は決して多くはなく、その中でもわが国のような社会的、法的条件が整備されていない状態での実践には課題が多いことが指摘されている。

本研究では、児童養護施設入所児童への LSW を推進していくために、全国規模のアンケート調査を行い、LSW 実践に影響を与える要因を探り出すことを目的とする。

2. 研究の視点および方法

1) 調査対象と調査方法

全国の児童養護施設 585 ヶ所、児童相談所 206 ヶ所（それぞれ 2012 年 1 月 10 日現在）に対して調査票を郵送した。回答については、LSW を実施しているところは、中心となって実施している人、実施していないところは、代表の人（施設長、所長など）に依頼した。調査期間は、2012 年 2 月 2 日から 2 月 29 日である。

2) 質問紙

質問紙の構成は、①回答者の属性（勤務年数、職種、所持資格等）、②LSW の実施状況を問う項目、③LSW 実践に関する「考え」と「現状」を問う項目（LSW を実施するうえで必要と考えられる内容について、それぞれ必要性〈考え〉と実施の度合い〈現状〉の 2 段階で質問）である。

上記の③LSW 実践に関する「考え」と「現状」を問う項目については、LSW の実践・研究のエキスパート 5 名へのインタビュー調査から抽出した「LSW を実施するうえで必要なこと」に、文献から必要な項目を追加して作成した。

3. 倫理的配慮

調査票に、調査結果は統計的に処理され、個別の児童養護施設あるいは児童相談所が特定できるような情報は公開しないことを明記するとともに遵守している。

4. 研究結果

1) 回収集と回収率

調査票の回収数は、児童養護施設 173 ヶ所（回収率 29.6%）、児童相談所 86 ヶ所（回収率 41.7%）であった。

2) LSW 実践に関する「考え」と「現状」を問う項目（それぞれ 10 件法）の分析

平均値を見ると、児童養護施設、児童相談所ともにすべての項目で、「現状」より「考え」のほうが高かった。「考え」と「現状」の平均値には中程度の相関がみられ、平均値差は 1% 水準で有意であった。

① 「考え」と「現状」の平均値がともに高かったもの（LSW を行ううえで必要と考えられ、かつ実施度も高いもの）

- ・子どもたちの施設での生活の安定・子どもと職員の信頼関係・施設（相談所）における協力体制・施設の中で子どもの写真や思い出の品を大切にする風習・実施するとき子どもに生まれてきたことを肯定的に伝えること・施設と相談所の連携・実施者の社会的養護の子どもへの理解と生き立ちの尊重・LSW を行うことによる実施者のさらなる子どもの理解や成長

② 「考え」と「現状」の平均値差が大きかったもの（LSW を行ううえで必要と考えられるが、実施度の低いもの）

- ・LSW を実施するための時間と精神的ゆとり・実施者の養成・実施方法の明確化・効果測定の見点の導入・LSW を行うことによる子どもの自己肯定感の獲得

5. 考察

LSW 実践に関する「考え」と「現状」の結果から、児童養護施設、児童相談所ともに、LSW を行ううえで「必要」と考えてはいるが、実際には「実施できていない現状」があることが明らかになった。その中で、子どもとの関係性や職場内の協力体制、施設と児相の連携など、これまで日々取り組まれてきたことは、必要性、実施度ともに高く、LSW 実践を促すものと捉えることができる。また、職員の勤務体制や実施者の養成、実施方法の確立といった実施体制は、必要性は高いものの実施度は低く、LSW 実践を困難にしているものと捉えられる。今後は、LSW 実践に影響を与える要因をより詳細に探索していくとともに、実践との因果関係について明らかにしていきたい。

本研究は、平成 23 年度日本学術振興会研究費補助金（基盤研究（C））『児童養護施設におけるライフストーリーワーク実践に関する基礎的研究（課題番号 22530656）』の一部を報告するものです。本調査にご協力いただきました全国の児童養護施設ならびに児童相談所の方々に深く感謝いたします。